

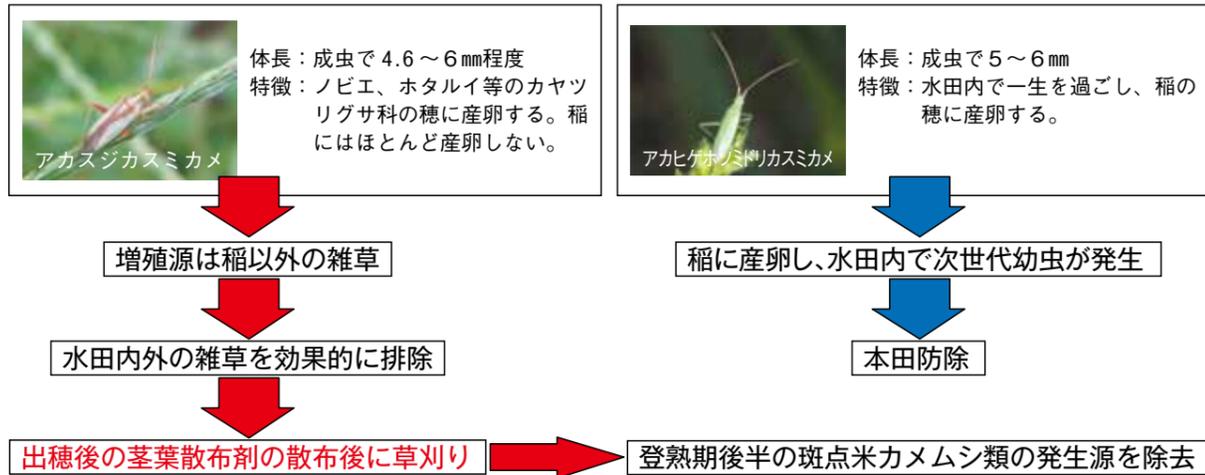
斑点米カメムシ類大発生注意報！！

～今年のカメムシ防除は“2回”を基本をお願いします!!!～

■ 斑点米カメムシ対策特集

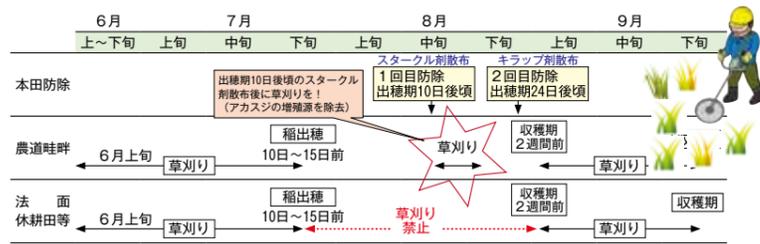
・1ページ目でも触れましたが、今年は斑点米カメムシ（アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多く、特にイネ科雑草が出穂している畦畔、休耕田等の雑草地や、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草（ホタルイ類）が残っている場合は、すくいとり数が多くなっています。薬剤防除、耕種防除で斑点米被害を抑えましょう。

■ 主なカメムシの特徴と防除概要



■ 耕種防除

・アカスジカスミカメはノビエやカヤツリグサ科の雑草の穂に産卵し、増殖するため、**出穂期10日頃の茎葉散布剤の散布後に畦畔や農道の草刈り**を実施し、アカスジカスミカメの増殖地を除去しましょう。この草刈りはできるだけ薬剤散布直後に行うことが重要です。その後は収穫2週間前までは草刈りはしません。



■ 薬剤防除

・通常の防除は出穂期10日頃の1回散布としていますが、今年は発生量が多いことから、**出穂期10日後頃と24日後頃の2回散布を基本**としましょう。散布計画の策定と薬剤の準備は早めに行いましょう。(無人ヘリ防除の場合は散布組合との話し合いを考慮に入れましょう。)

散布時期	薬剤名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤	1,000倍／60～150ℓ		
追加防除1回目散布の14日後頃	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	1,000～2,000倍／60～200ℓ		



No.5

農業技術情報

平成25年8月発行

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課

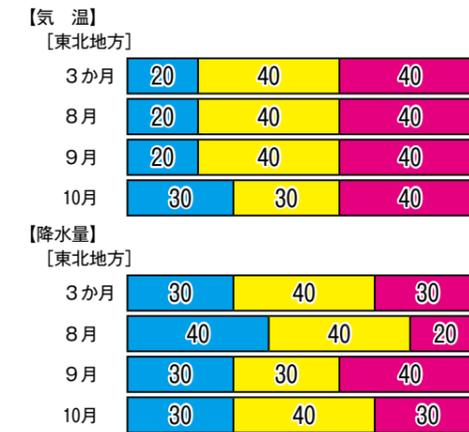


■ 登熟期間の高温は水管理で対応！ ■

～出穂後は水管理・いもち・カメムシ対策に重点を置きましょう～

■ 気象予報：東北地方3ヶ月予報（仙台管区气象台 7月25日発表）

〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確立(%)〉



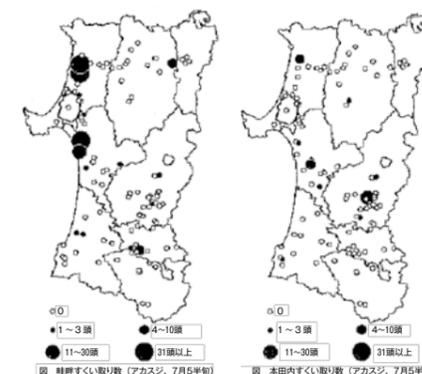
7月25日には仙台管区气象台から東北地方3ヶ月予報が発表されました。8月、9月は高温傾向で経過すると予報されています。昨年は高温登熟の影響による白粒や充実度不足により、2等以下への落等が見受けられました。今夏も高温傾向の予報ですが、適切な水管理等により良い出来秋をむかえましょう。

8月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率とともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
9月 東北日本海側では、天気は数日の周期で変わってでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。気温は、平年並または高い確率とともに40%です。
10月 天気は数日の周期で変わってでしょう。

■ トピックス：【斑点米カメムシ発生状況について】

～秋田県病害虫防除所 7月5半旬調査結果より～

・今年の斑点米カメムシ類のすくい取り調査の結果、発生は全県全てで“多い”との評価です。仙北管内でもほ場に調査に入ると目視でカメムシが確認できるほど発生しており、十分な今後の被害発生に注意が必要です。



畦畔すくい取り地点率（7月5半旬）

	アカスジ(成幼虫)				アカヒゲ(成幼虫)				斑点米カメムシ類			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
2013	12.9	23.3	10.3	15.0	25.8	36.7	17.9	26.0	29.0	50.0	25.6	34.0
2012	12.9	16.7	23.1	18.0	16.1	20.0	25.6	21.0	22.6	33.3	38.5	32.0
平年	4.5	10.8	4.9	6.5	34.5	40.7	33.9	36.6	40.2	47.3	43.2	44.1
概評	多	多	やや多	多	多	多	少	やや少	やや少	並	少	やや少

本田内すくい取り数（7月5半旬）

	アカスジ(成幼虫)				アカヒゲ(成幼虫)				斑点米カメムシ類			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
2013	0.3	0.3	0.5	0.4	0.2	0.2	0.0	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5
2012	0.1	0.6	0.0	0.2	0.4	0.0	0.2	0.2	0.5	0.6	0.3	0.4
平年	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2
概評	多	やや多	多	多	やや多	やや多	やや少	並	多	多	多	多

※詳しい防除対策は4ページ（ウラ表紙）に記載しております。



園芸施設共済 台風シーズン到来!今すぐご加入を!



注意
台風の進路が発表されたときなどの
かけ込み加入はできません。

参考)4間×10間のハウス
28万9千円の補償金額
掛金は6,573円(12ヶ月)です

■ **水稻定点調査結果** 7月25日現在 (仙北地域振興局農林部農業振興普及課)

	草 丈 cm	茎 数 本/m ²	葉 数 葉	SPAD (葉色値)
本 年 値	78.9	447	12.0	37.8
平 年 値	73.8	463	12.2	37.5
平 年 比	107%	97%	- 0.2	101%
前 年 値	68.2	536	11.5	37.6
前 年 比	116%	83%	0.5	101%

あきたこまち10地点

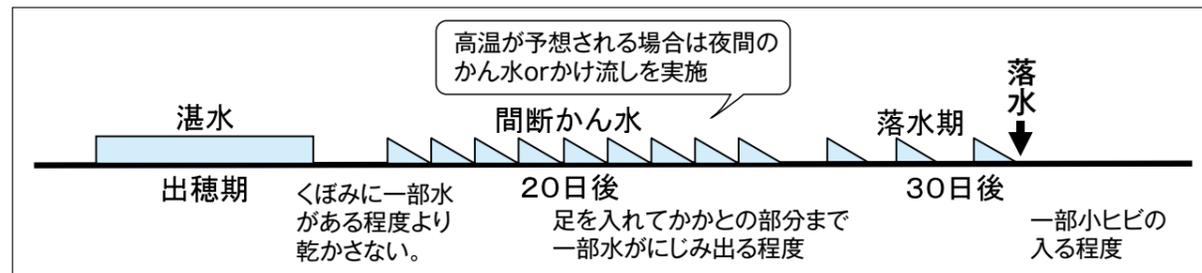
定点調査結果

7月25日調査の「あきたこまち」の生育は、草丈78.9cm (平年比107%)、茎数447本/m² (平年比97%)、葉数12.0葉 (平年差-0.2葉)、葉色37.8 (平年比101%) となっています。

葉数、葉色のは場間差が大きい状況です。これまでの生育状況から、出穂は平年並の見込みです。

■ **出穂期からの水管理**

- ①出穂当初は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は5～6cm程度の水深で湛水します。その後は2～3cmの浅水、間断かん水とします (下図参照)。
- ②落水の時期は、概ね出穂30日後とします。早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退により収量、品質、食味が低下する場合がありますので注意してください。
- ③イネの活力低下を防止するため、気温が30℃以上になる日は、夜間にはかん水、日中は落水し、地温を下げます。
- ④フェーンなど乾燥した風が強く吹送する場合は湛水にします。
(※昨年同様、登熟期に乾いた強風が吹くと予想される場合は特に注意が必要です)



■ **カドミウム対策**

・カドミウム濃度が0.4ppmを超える米を流通させると食品衛生法違反となります。汚染米を生産・流通させないように水管理を徹底しましょう。

- カドミウムを根に吸収させないため、**出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間は常時湛水管理を行い、田面が空気に触れないよう管理してください。**(田面が露出すると土壌が酸化し、カドミウムが吸収されやすくなります)。



■ **白粒・胴割れ粒対策** 水管理で高温登熟を防ぎ、白粒・胴割れ粒の発生を防ぎましょう。

- ・白粒、胴割れ粒は出穂後から登熟期にかけて高温状態にさらされると発生が増加します。この時期は水管理で地温を下げ、白粒、胴割れ粒の発生を防ぐ管理を行いましょう。
※水管理法については2ページに記載しています。

○高温登熟被害粒の発生要因と技術対策

項 目	気 象 的 要 因	栽 培 的 要 因	技 術 対 策
白未熟粒	乳心 白白	出穂後4～20日頃の高温	籾数過多 穂数制御 かけ流し 夏期常時湛水
	背腹 白白	出穂後16～24日頃の高温	登熟期後半の肥切れ 穂肥 かけ流し 夏期常時湛水
充実度不足粒	登熟期間の高温	登熟期の肥切れ	穂肥、かけ流し
胴割れ粒	出穂10日間の高温	登熟期の肥切れ肥切れ 早期落水 刈り遅れ、過乾燥	穂肥 かけ流し 夏期常時湛水 適期刈り取り、2段乾燥



乳白粒

胚乳部は白色不透明であるが、粒の外周部の充実は正常であるので、死米と異なり粒に光沢がある。白色不透明の部分が粒平面の約1/2以上のものは未熟粒として扱う。



腹白未熟粒

腹部に白色不透明の部分があるものをいい、白色不透明の部分の大きさが粒長の約2/3以上で、かつ粒巾の1/3以上のものは未熟粒として扱う。



胴割粒

胴割粒とは胚乳部に亀裂を生じている粒をいい、多くの場合、もみが急激な乾燥または吸湿にあうと起こる。胴割粒は、とう精中に碎粒になりやすく精米の品質と歩留に及ぼす影響が大きい。

■ **穂いもち病対策** 葉いもちの発生に伴う穂いもち防除について

- ・葉いもちの発生が全く認められず、周辺の発生田からの伝染の影響のないほ場では、防除の必要はありません。ただし、葉いもちが多発しているほ場が隣接している場合などは、出穂期～7日後にラブサイド剤の茎葉散布をします。また、葉いもちの発生が認められるほ場では、出穂直前と穂揃期にラブサイド剤またはビーム剤の茎葉散布をしてください。

無人ヘリ以外の防除方法について

散布のポイント	薬 剤 名	希釈倍率/散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
予防剤と治療剤の混合剤	ブラシン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	2回以内
	ブラシンフロアブル	1,000倍/60～150ℓ		
出穂直前と穂揃期の2回 ※多発時は傾穂期に追加防除	ラブサイド粉剤DL	4kg	収穫7日前まで	3回以内
	ビーム粉剤DL			
	ラブサイドフロアブル			
	ビームゾル	1,000倍/—		

※フサライドの本田での総使用回数は3回以内なので注意する。(フサライドはラブサイド剤、ブラシン剤に含まれる成分です。総使用回数に注意してください)

※ビームゾルは傾穂期以降に散布すると薬害を生じることがある。